第2章 普及活動

1. 排出放射性物質影響調査研究情報発信活動

青森県からの委託業務「排出放射性物質影響調査」によって実施されてきた調査研究の内容や得られた成果等について、県民に対面で説明する成果報告会と出前説明会を実施するとともに、インターネットやパンフレット等の媒体を用いて情報発信した。

1.1 成果報告会

成果報告会では、放射性物質環境移行低減化調査で進めている牧草への放射性物質移行低減に関する調査結果及び母体内における低線量率放射線被ばく影響実験調査について、その意義と成果を分かりやすく報告した。

前者は、牧草を対象作物とし、放射性物質の代表的な元素として知られているセシウムの移行低減に向け、土壌のどのような特徴が牧草への放射性物質の移行に大きく寄与するのか調査した結果について報告した。後者は、実験用マウスを対象として、妊娠期間である18日間にわたり20ミリグレイ/日の低線量率放射線、200、400ミリグレイ/日の中線量率放射線を照射した群、及び770ミリグレイ/分を2.6分間照射した高線量率放射線を照射した群で得られた仔マウスの影響について比較を行った実験結果について紹介した。

開催地は、六ヶ所村、青森市、弘前市、及び八戸市の計4ヶ所で、それぞれ68名、81名、83名、及び46名であった。なお、六ヶ所村及び八戸市で開催した成果報告会では、高井良尋氏（一般財団法人脳神経疾患研究所附属南東北 BNCT 研究センターセンター長）による基調講演及び上記2題の成果報告に加え、公益財団法人日本海洋科学振興財団が実施している「下北半島太平洋側沿岸における流れの変動の伝播について」も報告した。また、青森市、弘前市で開催した成果報告会は、「環境科学セミナー」と題し、青森市では村山貢司氏（一般財団法人気象業務支援センター）による基調講演、弘前市では中川恵一准教授（東京大学医学部）の基調講演を実施し

た。

1.2 出前説明会

出前説明会は、参加者を募集して地域の公民館などで県民に説明する「募集型」、団体等への働きかけや依頼等に応じて説明する「連携・依頼型」、及び大学祭等のイベントに参加して説明する「イベント型」に分けて、実施した。

募集型の出前説明会は青森市、八戸市及びつがる市で開催し、参加者数は計73名であった。つがる市では国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構の明石真言氏をお招きして、放射線と健康影響に関する講演会を実施した。また、青森市、八戸市では、影響調査の成果として生物影響研究の寿命試験を中心に紹介し、放射線や放射性物質等の基礎知識、放射線測定器を用いた実演や実習、放射線以外の生活習慣によるがんのリスクと放射線によるリスクの比較に関する説明をした。

連携・依頼型の出前説明会の実施回数は14回、参加者数は計498名であった。主な実施先は、青森市の生涯学習萩の会、むつ市役所、六ヶ所村立千歳中学校等であった。

イベント型の出前説明会は、青森大学、八戸学院大学、弘前学院大学の学園祭及びろっかしょ産業まつりにおいて実施した。霧箱やスパークチェンバーを用いて放射線に関する基礎知識を解説するとともに、パネルを用いて調査研究成果について説明を行い、参加者数は計715名であった。

合計で出前説明会の開催数は21回、参加者総数は1,286名であった。

1.3 ホームページの制作・運営管理

トップページの更新や用語解説ページの修正・更新、研究の進捗に応じた研究紹介に関するページの更新、情報発信活動で実施した成果報告会や説明活動等に関する情報や発行物等の掲載など、ホームページ内容の更新作業を行った。また、新たに作成したリーフレットなどを掲載した他、青森県内外を問わ

ず放射線に関する質問や資料請求の問い合わせ等に対応した。

アクセス数は、平成 30 年度は 15.6 万ページビューであり、前年の 13.7 万ページビューより増加し、引き続き高い水準を保っていた。

1.4 印刷物の作成

県民に対して調査研究の成果や関連する知識を分かりやすく説明するため、パンフレット「放射線の基礎知識」やテーマ毎に分かり易く説明するリーフレットの作成・配布、成果報告会と出前説明会の広告用に新聞折り込みなどで配布するチラシ裏面を利用して成果を簡潔に記載する印刷物の発行をした。また、青森県が発行する排出放射性物質影響調査全体の概要を分かりやすく紹介する「排出放射性物質影響調査の概要について」の当所の成果部分の作成を行った。

2. その他の活動

六ヶ所村内の小学生等青少年を対象に、実験・体験を通して自然科学に興味を持つきっかけを作る活動を行った。

①六ヶ所産業まつり出展（平成 30 年 11 月）

テーマ：「ホッカイロ作り」

②冬期理科教室（平成 31 年 2 月）

テーマ：「レプリカハンド（石膏手型）を作ろう！」